

4つの視点で紐解く子どもたちの成長

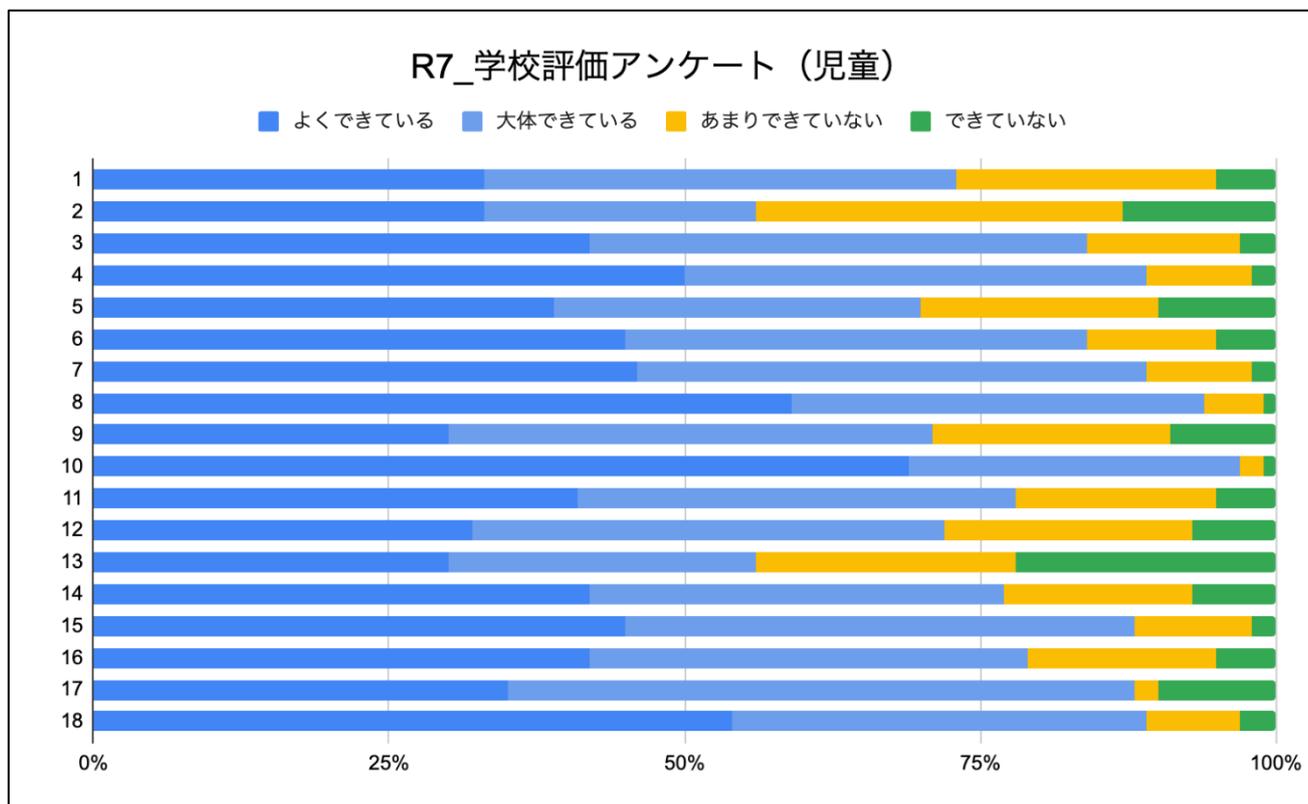
この度は、本校の学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。皆様から寄せられた貴重なご意見を今後の学校運営に活かしてまいります。このアンケート結果をより深く子どもたちの成長を理解するために、本校の教育目標「未来永笑」に沿った4つの視点から分析いたしました。この分析は、子どもたちの「自己指導能力の育成」という大きな目標を達成するためのものです。

分析により、子どもたちの成長を多角的に捉え、項目ごとの数値だけでは見えてこない、子どもたちが持つ力や、今後の課題をより明確にしていきたいと考えています。

本校では、子どもたちの健やかな成長のために、学校の教育目標「未来永笑～互いを認め合い、共に高め合う 山階南」のもと、特に以下の4つの視点を大切にしています。

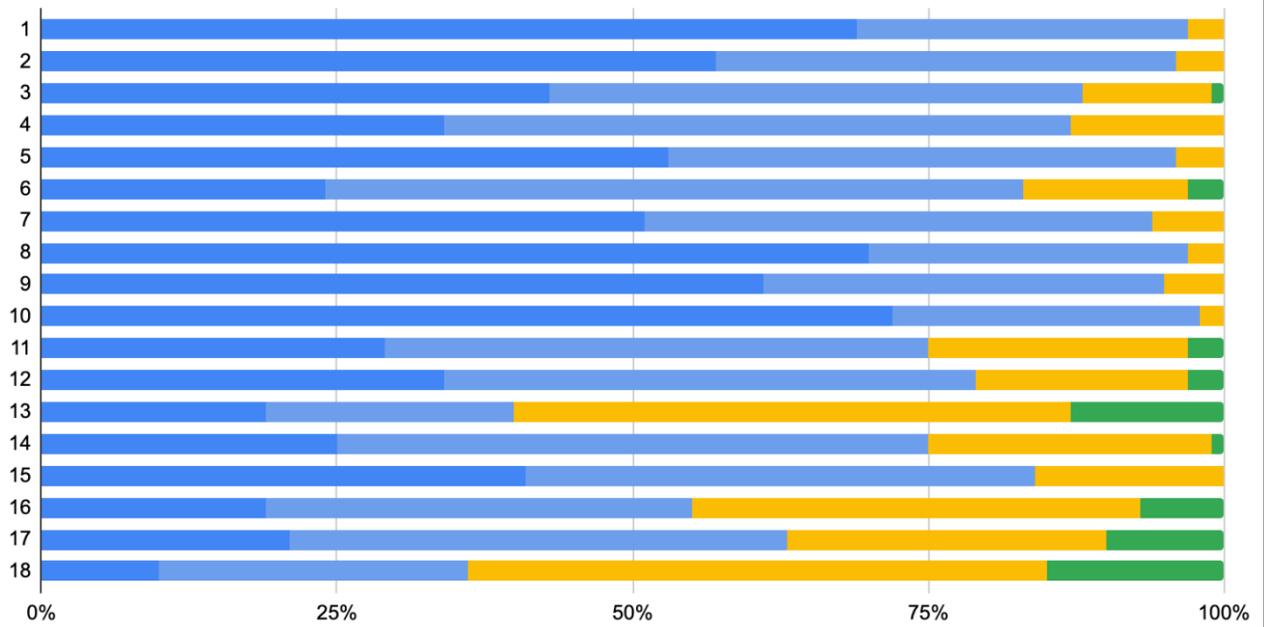
1. 自己存在感の感受
2. 共感的な人間関係の育成
3. 自己決定の場の提供
4. 安全・安心な風土の醸成

これらは、子どもたちが社会を生き抜く力を育む上で欠かせない要素であり、家庭のご理解とご協力が不可欠です。ご家庭でも、ぜひ、これらの視点を意識した対話やサポートをお願いいたします。学校と家庭が連携し、子どもたちが「未来永笑」できる学校を共に築いていけるよう、今後ともご協力をお願い申し上げます。



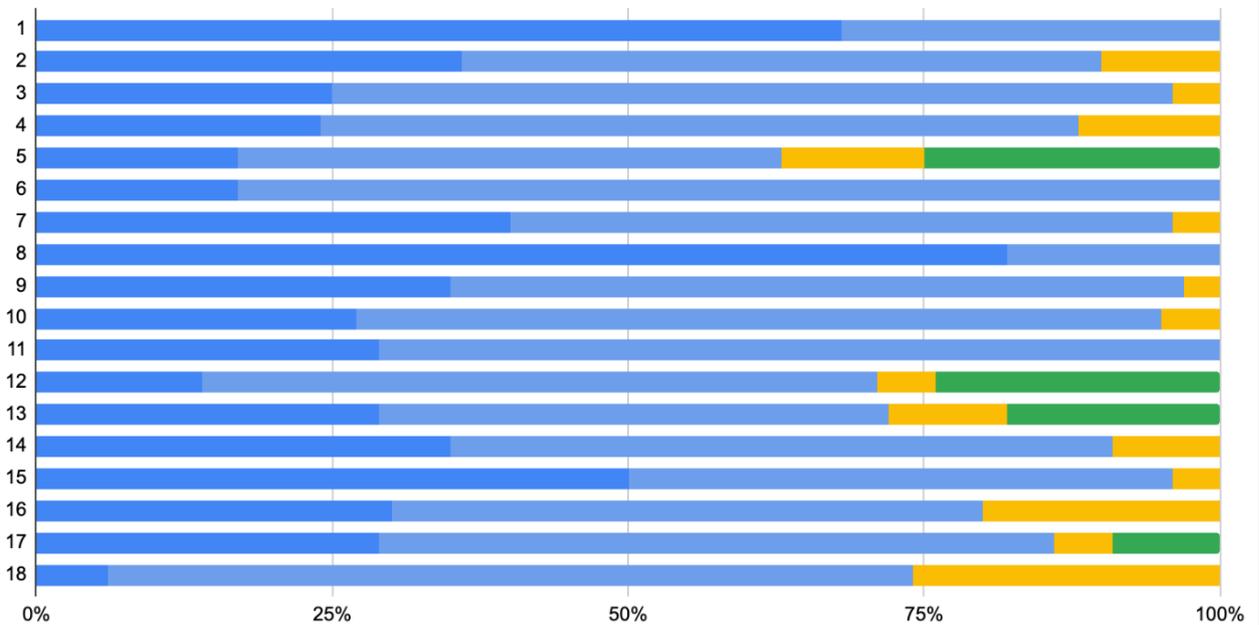
R7_学校評価アンケート（保護者）

よくできている 大体できている あまりできていない できていない

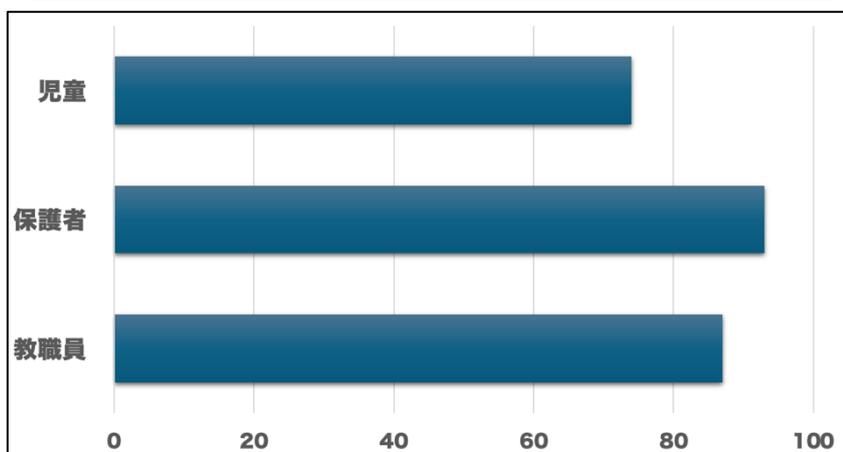


R7_学校評価アンケート（教職員）

よくできている 大体できている あまりできていない できていない



自己存在感の感受



質問番号

【児童】【保護者】【教職員】
共通して、1・2・3・4・5

※上記の項目のうち、「よくできている」と「大体できている」の肯定的な回答を合算して左のグラフに表示しています。

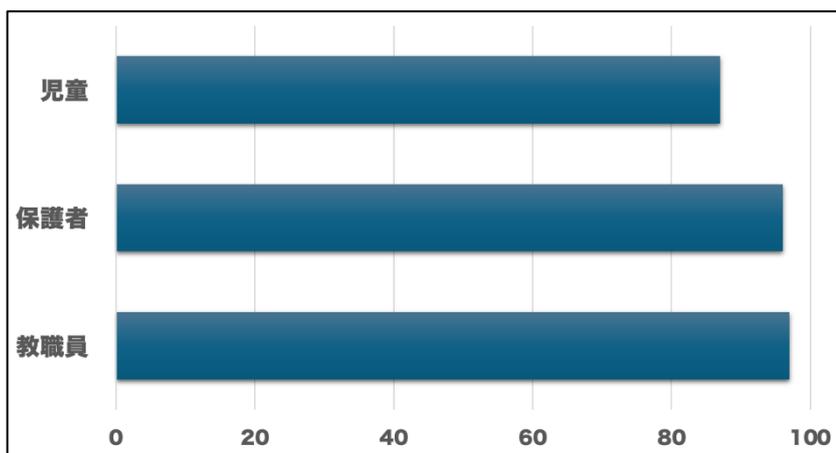
自己存在感の感受とは、「一人ひとりの児童生徒をかけがえのない存在と捉え、個性や独自性を大切にすることです。子どもは、あいさつや身の回りのこと、みんなのための仕事を進んでできるか、大人は、それらができるように支援しているかということです。また、自分の良さや強みがわかったり、自信をもてたりしているかということも関係します。自分の良さや強みは、自分だけでわかるものではなく、友達との学習活動の中で気づいていたり、発揮されていたりするものです。

児童への質問2「じぶんのよいところがいえる」では、肯定的な回答前年度から微増したものの、55%にとどまった一方、保護者の方や教職員が、「子どものよさを認めたりほめたりしている」という回答はどちらも前年度と同様に9割を超えました。「認めたりほめたりしていることが届いているか」という視点での子どもへの接し方が引き続き必要かもしれません。

児童への質問4「かかりやとうばんの仕事をじぶんからすることができている」では、この「自己存在感の感受」のセクションの中で児童の肯定的な割合が最も高かった結果が出ました。係や当番の仕事は自分からしようという子どもはとて多いことがわかります。また、その中には全体の状況を見て、さらに自分からできることを探して動くことができる子どももいるようです。決められたことや言われたことをするだけでなく、自分で考えて動くことができるようにしていきたいと考えています。

児童への質問5「学校での出来事を家の人に話しているか」では、「学校での出来事を家の人に話している」という子どもの肯定的な回答は70%でした。「子どもに学校での出来事や学習の様子を聞いている」という保護者の割合が9割を超えていることから考えると、少し意識の差があるようです。また、「学級だよりや学年だより、ホームページなどで、子どもたちの学習の様子を伝えている」という教職員の項目は63%とこのセクションでは最も低くなりました。ホームページやお便り等で子供たちの様子を伝えられるよう今後も努力してまいります。何かあったときだけではなく、普段から何気ないことも含めて、子どもたちの話に興味をもって聞くこと、大人側が子どものおもいを引き出すような言葉かけや、姿勢を見せていきたいと感じました。

共感的な人間関係の育成



質問番号

【児童】【保護者】【教職員】
共通して、7・8・9・10

※上記の項目のうち、「よくできている」と「大体できている」の肯定的な回答を合算して左のグラフに表示しています。

「共感的な人間関係の育成」とは、自他の個性を尊重し、相手の立場に立って考え、行動できる協力的な人間関係を学級の内外に築くことです。

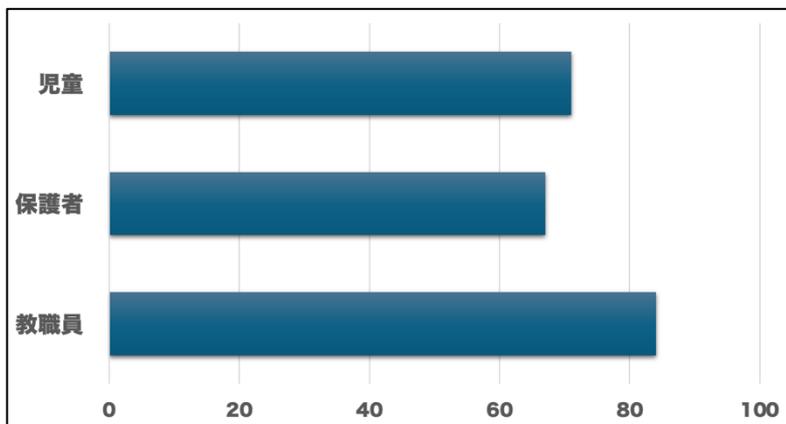
児童への質問7では、「ひとのはなしを さいごまで しっかりきいている」では、89%の子どもたちが肯定的な回答をしていました。人の話を最後まで聞くことの大切さはどの子どもも理解はしているようです。

また、質問8「かんしゃのきもちとして、「ありがとう」や「ありがとうございます」をつたえている」では、感謝の気持ちも伝えることができているという自覚のある児童が9割を超えました。このことについては、保護者の方も教職員も自信をもって声かけをしている結果がうかがえます。今後は、「いいね」「わかるよ」「そうなんだ」「いっしょにかんがえよう」などの「共感言葉」がさらに増えるとうよいと思います。

児童への質問9「こまったことがあったら いえのひとや せんせいにはなしたり、そうだんしたりしている」では、肯定的な回答は71%にとどまりました。これは前年度からの課題であり、R7の前期の結果においてもこれまでと同じような結果になりました。普段から、「相談できる」「相談しやすい」と子どもたちが思えるようにしたいと考えています。相談があった際は、校内でもできる限り共有し、複数体制で相談に乗っていけるようにしていきます。

児童への質問10「じぶんやともだちとたいせつにしている」では、児童の肯定的な回答は9割を超えました。実際にできているかどうかは別として、根本としての意識が「大切にしている」となっていることは安心材料の一つでもあります。今後とも「じぶんやともだちをたいせつにする」とはどのようなことなのか、折に触れて指導したり話したりしていきます。また、自分や友達を大切にするための言葉や行動は、日常生活のようなリアルな場面だけでなく、スマホやタブレットを介したデジタルな場面でもその姿勢が問われます。学校のタブレットと違い、スマホや私的なタブレットを使ったSNSなどの「閉じた空間でのやりとり」については、学校が全てを確認することは難しく、保護者のみなさまの監督の元、子どもたちに適切に指導、助言していただくことが必要です。学校でも、そのような場でのコミュニケーションの仕方について、2ndGIGA 端末 (iPad) の使い方を通じて考えていけるようにしていきたいです。

自己決定の場の提供



質問番号

【児童】【保護者】【教職員】
共通して、11・12・13・14

※上記の項目のうち、「よくできている」と「大体できている」の肯定的な回答を合算して左のグラフに表示しています。

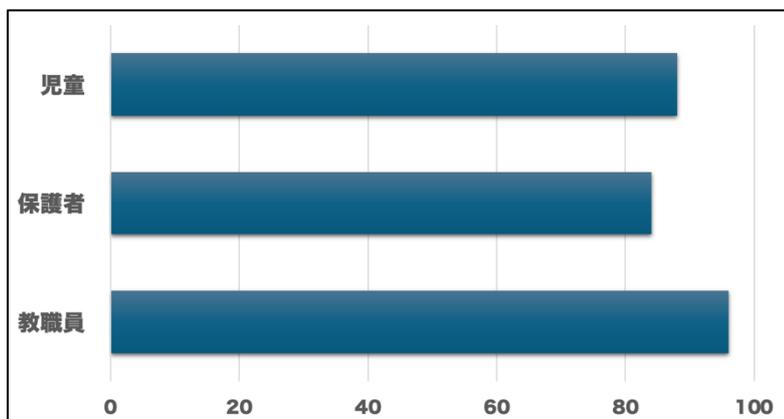
「自己決定の場の提供」とは、自ら考え、選択し、決定し、行動する（発表・制作など）経験が得られる機会を意図的に設定することです。例えば、学校での活動や家庭でのルールについて、子どもたちが意見を出し合い、その意見を尊重して決定する場を設けることがあります。これにより、子どもたちは自分の選択に責任を持ち、自信を持って行動できるようになります。

また、保護者としては、子どもたちが自分で決めることをサポートし、必要に応じてアドバイスを与えることが大切です。これにより、子どもたちは自立心を育み、将来の様々な場面で自分の力で問題を解決できるようになります。

児童への質問 11「じゅぎょうは、じぶんから すすんで、がくしゅうしている」や、質問 12「かていがくしゅうに じぶんから すすんで、とりくんでいる」では、学校での学習や家庭学習についての主体的な態度について聞きました。どちらも肯定的な回答は、8割に満たない結果となりました。児童の中では、「自分からしているというよりは、先生や家の人に言われたからしている」という意識の児童もいるかもしれません。したがって、自主的に取り組む楽しさや具体的な方法については、学校でも発達段階に応じて指導していきたいと考えています。子どもたちが自分で目標を設定し、それに向かって努力する機会をつくったり、肯定的な声かけにより、自分から学ぶことの楽しさを感じたりできるようにしていけるようにしていきます。今後も学習の内容や方法を工夫して取り組んでいきますので、ご家庭でも子どもたちのがんばりに応じて適切に努力や過程を褒めたり認めたりしてあげてください。

昨年度からの懸案事項だった、児童への質問 13「がっこうや いえで ほんを よくよんでいる」は、今年度においても他の質問の回答に比べ、低い結果となりました。この質問に関しては、保護者の方や教職員の回答も低いものになっています。家庭では、放課後の過ごし方が多様化している中、本を読む時間のみを確保するのは難しいのかもしれません。学校では、朝学習や課題が終わった場合などに読書の時間を取っていますが、「読みたい本を自ら選び、進んで読む」という姿勢にまで至っていない児童も多くいると感じます。昨年度から保護者の有志の方々「やまなみらい」による読み聞かせが月に1回行われています。また、本の修繕や本の帯なども作成いただき、やまなみ広場に置いていただいています。このようなことをきっかけにしつつ、今後も意図的に読書の楽しさに触れられるように取り組んでいきたいと思っております。

安全・安心な風土の醸成



質問番号

【児童】【保護者】【教職員】
共通して、15

※上記の項目のうち、「よくできている」と「大
体できている」の肯定的な回答を合算して左のグ
ラフに表示しています。

「安全・安心な風土の醸成」とは、お互いの個性や多様性を認め合ったり、安心して授業や学校生活を送ることができる風土をつくったりすることです。特に、小学校では、学級や学年で活動することがメインになりますので、その中でのルールや「やくそく」が子どもたちの中で約束されていて、どの子どもも安心して学習できることが大切です。

質問 15 では、「みんながきもちよくすごせるように がっこうや いえでのるうるを ままろうとしている」か問いました。88%の児童が肯定的な回答をしている一方で、そうではないと感じる児童も1割弱いました。学校は集団生活の場ですので、お互いが気持ちのよい「ルール」や「やくそく」を考えることが大切かと思えます。その際、教室には、様々な価値観をもった子どもや様々な背景をもった子どもがいることを考えることが必要になります。また、ルールの意図や重要性を十分に理解したり、ルールがなぜ必要なのかについての理解を深めたりできるように指導していきたいと思えます。ご家庭にもルールややくそくがあると思えますので、ぜひ学校のものと絡めてお話いただけると幸いです。

それ以外の項目について

質問 18 「さんかいみなみの ちいきのことが すきである」については、約9割の児童が肯定的な回答をしていました。学校では、地域の方々に、朝の交通安全を見守っていただいたり、授業にゲストティーチャーとして参加していただいたりしています。また、教職員も生活科（1・2年生）や総合的な学習の時間（3年生以上）授業の中で、地域の公園や川について取り上げたり、地域のお祭りに参加したりすることで地域と触れ合う機会をもてるように計画しています。一方、保護者の方の中には、前年度と同様に「家庭や地域等で、山階南の地域の良いところを話したり、ふれあったりする機会をもっている」と感じておられない方も多数いることが結果からわかりました。防災、減災という意味でも地域の力（共助）は大切です。そのような物理的なつながりも、心理的なつながりもどちらも大切にできるように学校でも改めて考えていきたいと思えます。